Hokuriku Regional Bureau of Telecommunications

北陸総合通信局
マスコット
「ビビットくん」

北陸総合通信局
職場紹介資料

-先輩職員からのメッセージ-

総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications

情報通信部 電気通信事業課

事業担当

令和５年４月採用

文系出身　文学部

令和５年　　入局　電気通信事業課

Point 01

・電気通信サービスに関する届出のチェック

・契約数･回線数報告の取りまとめ

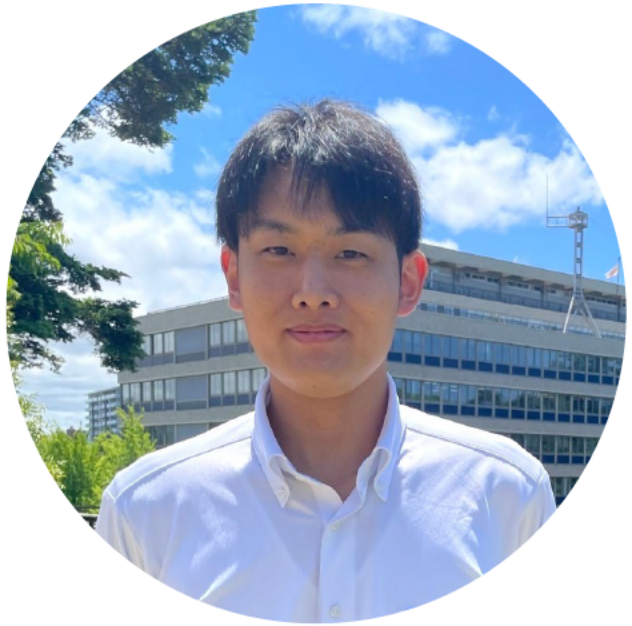
・技術者資格者証の交付

・消費者支援連絡会の運営

Point 01 仕事のやりがい

携帯電話・インターネットに関わる消費者トラブルの解決促進に向けた業務では、事業者や消費生活センターと課題を共有し、改善に向け意見交換する場を継続的に設けています。業界の動向や勧誘・販売に関するルールについて詳しくなるため、自身の消費者リテラシーも向上しています！

局内の仕事は様々ですが、いずれも通信を利用する人、国民全員の安全のために働いているというやりがいがあると思います。少しでも興味があれば、文理問わずお気軽に説明会お越しください！



情報通信部 電気通信事業課

企画連携担当

令和５年４月採用

理系出身　工学部（電気電子）

令和５年　　入局　電気通信事業課

Point 01

・北陸情報通信協議会の事務局補助業務

（協議会事業･部会活動の企画･運営、イベントの周知、協議会ＨＰ管理等）

・サイバーセキュリティ対策の推進

（サイバーセキュリティニュースの発行等）

Point 01 仕事のやりがい

北陸地域における情報通信の普及、発展を図る北陸情報通信協議会という団体の事務局補助を担当しています。北陸地域の産学官が結集した大きな団体ですので、円滑な運営ができた際には、非常にやりがいを感じます。また、情報通信に関する最新の動向を把握することができる魅力的な部署です。

Point 02 ワークライフバランス

積極的な休暇取得、定時退庁が奨励されており、プライベートの時間を十分に確保することができます。

情報通信部 情報通信振興課

地域振興担当

令和５年４月採用

文系出身　人文学部

令和５年　　入局　総務課

・給与支給事務

令和６年　情報通信振興課 Point 01

・情報化による地域振興の各種補助事業･支援制度の周知･対応

Point 01 北陸総合通信局ならではの仕事

情報通信を活用して地域の課題解決に向けた取組を行う団体に補助金を交付する業務に携わっています。地域の実情に応じてどのように取組が展開されていくか肌で感じることができ、よい経験となっています。

Point 02 ワークライフバランス

休暇が取得しやすく、ワークライフバランスの観点からとても働きやすい職場です。テレワークの活用も進んでいるため、柔軟な働き方が選択できる環境が整っています。

無線通信部 監視調査課

調査担当

令和５年４月採用

理系出身　化学科

令和５年　　入局　監視調査課

・電気通信監理用機器の整備保守

・高周波利用設備の許認可

・測定機器の較正

・不法、違法無線局探査

Point 01

職場の雰囲気

同期、先輩、上司と皆さんとても優しく、無線や電波など業務に関する知識が一切ないまま入局しましたが周りの方が親身になって教えてくれます。また、デスクワークだけでなく電波の混信調査等で出張にも行きます。現地に入ると、職場にある測定機器の使い方をレクチャーしてもらいながら仕事ができるため、目に見えない電波の知識をより深めることができます。

また別の部署の方々も気さくに話しかけてくださり、一緒に地域のマラソン大会にも参加したりして休日も楽しく過ごせています。

無線通信部 監視調査課

電波利用環境担当

令和４年10月採用

理系出身　バイオ・化学部

令和４年　　入局　陸上課

・無線局の許認可業務（アマチュア局、簡易無線局の申請処理）

令和６年　監視調査課

・電波利用環境の周知啓発業務

・登録検査等事業者の登録等の申請処理業務

Point 01 北陸総合通信局を選んだ理由

生まれも育ちも北陸であるため、仕事を通じて北陸地域に貢献したく、当局を志望しました。現在は電波利用環境の周知啓発等の業務を担当し、北陸への貢献を実感しつつ、やりがいをもって業務に取り組んでいます。

Point 02 職場の雰囲気

気軽に相談しやすい職場です。若手職員同士の横のつながりはもちろん、上司にも相談しやすく、縦のつながりも深いです。仕事の話だけでなく、雑談なども交えながら仲を深めることができます。

総合通信基盤局**（本省）**

電波利用料企画室

令和３年４月採用

文系出身　法学部

令和３年　　入局　電気通信事業課

・セミナー等の開催

・研究開発委託事業の経理検査、契約事務

・電気通信事業者等の届出処理

令和５年　　（本省）総合通信基盤局 電波利用料企画室 Point 01

・電波利用料財源予算のとりまとめ、執行管理

Point 01 本省派遣での業務、職場環境

本省では、「電波利用料」と呼ばれる無線局免許人等から電波利用の共益費用として負担いただく費用を財源とする予算の管理を行っています。本省ならではの仕事であり、国の予算の扱い方について学ぶことが出来るため、非常に良い経験となっています。お金を扱う分責任を伴う場面が多々ありますが、一人で悩むことなく上司と気軽に相談し合いながら進めています。

個人的には初の東京生活ですが、各地方局の同期が一斉に本省に派遣されるため、心強い仲間が沢山おり日々楽しく過ごしています。

情報流通行政局**（本省）**

地域放送推進室

令和３年４月採用

文系出身　教育学部

令和３年　　入局　電波利用企画課

・無線局監理システムの保守管理

令和４年　　監視調査課

・電波監視業務

・電波監視機器の保守管理

令和５年　　（本省）情報流通行政局 地域放送推進室　Point 01

・ケーブルテレビ事業に関する補助金の執行業務

Point 01 本省派遣での業務

現在の部署では、地理的な要因や耐災害性の観点から、ケーブルテレビの整備を必要とする地域について、自治体等の整備を支援するために補助金を交付しています。自治体等の要望や課題を調査し、実際に補助金を活用することで整備が進んでいく、この一連の流れを同部署内ですべて見られることで、責任感とやりがいをもって業務を行っています。

また、能登半島地震に係る災害対応として、放送・通信復旧に向けて室内全体で取り組んでおり、放送・通信の重要さも実感しながら貴重な経験ができています。

総合通信基盤局 基幹・衛星移動通信課**（本省）**

国際係

令和２年11月採用

理系出身　生命科学科

令和２年　　入局　陸上課

・無線局の許認可業務（防災関係・官公庁系・鉄道系）

令和５年　　（本省）総合通信基盤局 基幹･衛星移動通信課

Point 01

本省１年目　・無線局の許認可業務（各種レーダー関係）

・気象レーダーの制度整備

・研究開発の委託契約に係る業務（無線LAN関係）

本省２年目　・無線LANの制度整備

Point 01 北陸局･本省での業務

北陸局時代は無線局の許認可業務に従事しておりました。入局当初、無線という言葉自体あまり馴染みがなく、心配しておりましたが、困ったことがあれば先輩方が親身に相談に乗って下さいますので、臆せず仕事ができました。

現在の部署では、主に法令改正業務をしております。**分野の専門家を集めて開催する会議などの省内外調整や法令の作成**など大変な業務ではありますが、北陸局で培った知識や経験が礎となり、業務に励んでおります。

どちらの立場に立っても皆さんの生活をより良くしたい点では変わりはなく非常にやりがいがある仕事です！

情報通信部 放送課

テレビジョン放送担当

令和元年10月採用

理系出身　物理学

令和元年　　入局　監視調査課

Point 01

・電波監視システム（DEURAS）や測定器の保守･整備

令和４年　（本省）総合通信基盤局 総務課

・電波監理審議会の運営事務

令和６年　北陸局帰局　放送課

・テレビ･ラジオを放送するための許認可

Point 01

大変だった仕事（東京オリ･パラ）

2021年に開催された東京オリンピック･パラリンピックでは、約１ヶ月間、現地の会場にて電波監視を行いました。朝早くから会場に入る日もあれば、終電近くに会場を出る日もあったため大変でしたが、世界各国の人が一斉に集まる世界的イベントにおいて電波監視を行えたのは、とても良い経験になりました。

Point 02

ワークライフバランス

繁忙期や災害対応時以外は定時頃に退庁できることが多く、また休暇も取得しやすいため、仕事と趣味の両立が可能です。

無線通信部 無線通信課

一般企業担当

平成31年４月採用

文系出身　経済学

平成31年　　入局　情報通信振興室

・無線LAN整備の補助金業務

令和２年　陸上課

・無線局の許認可（防災関係、官公庁系）

令和３年　（本省）総合通信基盤局 基幹通信室　Point 01

・固定系無線の各種制度整備（免許希望する海外法人との折衝も）

令和５年　　北陸局帰局　無線通信課

・無線局の許認可（簡易無線局・登録局等の申請処理）

Point 01 仕事のやりがい

2年間の本省派遣では、制度整備に関する省内外との折衝や各総合通信局との調整が必要な業務が多く苦労しましたが、本省の立場から地方局と関わることができた経験のおかげで、帰局してからは地方と本省両方の視点を持って仕事に取り組むことが出来ています。現在の許認可業務においては大学や企業等と関わる機会が多く、無線局の免許を通じて地域の情報通信技術の発展に貢献できることに、やりがいを感じています。

Point 02 ワークライフバランス

昨年3ヶ月間育児休暇を取得しました。休暇や時短勤務など柔軟な働き方が選択でき、非常にワークライフバランスがとれている職場と思います！

無線通信部 無線通信課

電気通信業務担当

平成30年４月採用

文系出身　法学

- **平成30年　　入局　電気通信事業課**
  - ・電気通信サービスの安心・安全な利用環境の整備
- **平成31年　総務課**
  - ・広報、電波の日式典対応
- **令和２年　（本省）総合通信基盤局 電波利用料企画室**
  - ・電波利用料財源予算のとりまとめ、執行管理
- **令和４年　　北陸局帰局　総務課**
  - ・人事･給与業務
- **令和５年　無線通信課（電気通信業務担当）** Point 01
  - ・無線局の許認可（電気通信事業者、公益企業）

Point 01 仕事のやりがい

令和6年能登半島地震では、携帯電話がつながらなくなった地域に対して臨時で船上基地局、ドローン基地局等を開設する際の免許に携わりました。
昨今、通信インフラは、電気やガス、鉄道、道路、上下水道などと並び、生活上欠かすことのできない社会の基盤となる設備であり、災害時においては人命に関わります。改めて自分の仕事の重要性を実感し、より責任感をもって業務に励もうと思いました。

情報通信部 放送課

テレビジョン放送担当

平成29年４月採用

文系出身　法学

平成29年　入局　陸上課

・無線局の許認可（防災行政無線、鉄道関係）

平成30年　放送課

・有線放送（ケーブルテレビ、共聴施設）の許認可

令和元年　（本省）総合通信基盤局 総務課 Point 01

・基盤局内の業務の総括、調整　・国会対応、災害対応

令和３年　北陸局帰局　放送課 Point 02

・放送関係無線局（テレビ、ラジオ等）の許認可

・各種実態調査、補助事業

Point 01 本省での業務

自分が携わっていた案件が翌日トップニュースになったり、大臣会見や国会議員との会議に立ち会ったりと、たくさんの貴重な経験を積むことができました。つらかったことも嬉しかったことも一生の思い出です。

Point 02 現在の業務

生活の一部となっているテレビ放送をどの地域でも視聴できるか、視聴覚障害者等の方々でも情報を得ることができるよう字幕付与等の措置が講じられているか、災害時でも必要な情報を届けることができるか、といった点にも重点を置き、放送事業者にも御協力を頂きながら、日々業務に取り組んでいます。

組織情報

職員数

68名

平均年齢

49歳

20代 21%、30代 7%、40代 15%、50代38%、60代19%

事務官・技官比率

事務官 60% 技官 40%

※技官も無線専門の出身とは限りません！

男女比率

58名:10名

採用実績

2024年度 4名（3 1）

2023年度 5名（3 2）

2022年度 5名（3 2）

2021年度 3名（1 2）

2020年度 3名（1 2）

2019年度 4名（2 2）

Copyright.

よくある質問
FAQ

Q 勤務地はどこですか?

A 石川県金沢市です。北陸総合通信局は、北陸3県（富山・石川・福井）を管轄していますが、勤務場所は金沢市内（金沢広坂合同庁舎）であり、ほかに出張所や事務所等はありません。

Q 金沢市以外での勤務はありますか？

A 課長補佐級までは、ほとんどの職員が金沢市にある金沢広坂合同庁舎で勤務します。

ただし、採用後３年目に人材育成の一環として、２年間（現行）、総務省の本省内部部局（霞が関）で勤務をすることになっています。全ての職員が、本省での仕事を知る必要があり、人脈作りにも欠かせないものと考えているからです。皆さんの適性・希望等を考慮したうえで、再び本省で一定期間の勤務をすることもありますが、希望しない場合は居住地移転を伴う人事異動を原則行っていません。

希望して本省内部部局勤務に変更する方、その上で、在外公館、自治体等で勤務している方や、課長昇任後に他の総合通信局で管理職として勤務している方もいます。特に変わった例としては、総合通信局職員のまま、南極地域観測隊員として南極で活躍している方もいます。

Copyright.

よくある質問
FAQ

Q 北陸総合通信局ではどのような人材を求めていますか？

A 採用にあたっては、試験区分にとらわれず、人物本位での採用を行っています。

国家公務員としての役割を十分認識し、また、誠実さと協調性をもって何事にも積極的に取り組み、自分の能力を最大限に活かそうと努力する人材を求めています。

ICT、IoTは、農林水産業、伝統産業、医療、介護、教育、雇用、行政など様々な分野で活用されています。放送、電気通信事業、無線通信関係だけでなく、様々な業界の方々、老若男女、多くの方の話をしっかり聞き、仕事に活かすことができる人材を求めています

Q 採用はどのように決定するのですか？

A 人事院が実施する国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験）合格した方を対象に採用面接を実施し、面接を通じて皆さんの公務に対する思いや長所、積極性などをお聞きし、これらを総合的に判断して決定します。

Copyright.

よくある質問
FAQ

Q 採用までの流れはどうなっていますか？

A 人事院から紹介されているとおりの一般的な採用の流れです。

例えば、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験）第一次試験後、人事院が主催する官庁合同業務説明会が開催されます。

当局の業務説明会では、業務内容や採用について直接説明を受けることができ、若手職員や女性職員との懇談の機会もありますので、ぜひ参加いただければ幸いです。

その後、官庁訪問（採用面接）を行い、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験）最終合格者発表後に、合格者の中から採用者を決定（内定）します。

Q 採用は技術系区分の方が有利ですか？

A ICT、IoTに関する幅広い分野の業務を行っていることから、技術系の方がこれらの業務になじみやすいというイメージがあるかも知れませんが、有利不利はありません。ここ数年は「行政区分」の方も多く採用しています。

採用後、多種の研修や実際の業務を経験して、職員は試験区分にかかわらず様々な分野の業務で活躍しています。

業務を行う上では、管轄区域である北陸３県の地勢等に精通していただくことがとても大切なことです。

Copyright.

よくある質問
FAQ

Q 採用後はいろいろな業務を経験できますか？

A 本人の希望や、適性などを考慮して、より多くの部署での業務経験を積んでいただくことを目的に、一定期間ごとに異動します。

北陸総合通信局では、若手職員は管理部門（総務・財務）よりもできる限り、直接、情報通信(放送、電気通信、地域振興)、無線通信分野に関係する課・室に配属し、いち早く専門的知識を習得できるようにしています。

Q 女性にとって働きやすい環境ですか？

A 現在、女性職員は、無線局の許認可事務、ICT（情報通信技術）の利活用の推進、局全体の総合調整など、幅広い業務で活躍しています。

また、育児休業を経て復職し、復職後も育児短時間勤務や子の看護休暇などの子育て支援制度を活用したり、周囲の理解やフォローを得て、仕事と育児の両立を維持している職員もたくさんいます。

他の総合通信局では管理職となっている方もいます。

男性の産休･育児休暇を促進するとともに女性にとって働きやすい環境となるよう努めています。

※育児休業の取得実績【令和２年度】男性１名（６ヶ月）、【令和３年度】女性１名（１年６ヶ月）
【令和４年度】男性１名（３ヶ月）、【令和５年度】男性２名（ともに３ヶ月）

Copyright.

よくある質問
FAQ

Q 入局後のスケジュールについて教えてください。

A 年度当初（４月始め）から約３週間程度、総務省本省（霞が関）及び情報通信政策研究所（総務省職員研修施設：東京・国分寺市）において、国家公務員として必要な知識やビジネスマナー、ICT（情報通信技術）、無線通信技術の基礎などを学ぶ研修を受けていただきます。

その後、当局に戻った後は配属先の課室にて先輩による指導、アドバイスを受けながら業務を行うこととなります。

Q 入局後のキャリアアップはどのようになっていますか？

A 入局後は、係員としてスタートし、局内の様々な業務を経験しながら主任、電気通信専門官（電波監視官・電波検査官・企画監理官等）、係長（チーフ専門官）、課長補佐（上席専門官等）へと昇任していきます。

係長級に昇任後は、担当業務に精通した中堅職員として、係内の業務の取りまとめや係員個々の業務目標達成のサポートなど、係の中心となって活躍していただきます。

課長補佐級に昇任後は、将来のキャリアアップ（課長昇任）を念頭に、これまで培った知識と経験を活かし、後輩職員の指導・育成を行うとともに、課・室全体の業務と施策を実行する推進役として活躍していただきます。

Copyright.